

令和3年度修正事業計画書

(2021年4月1日～2022年3月31日)

I. 事業計画概要

令和2年2月に指定感染症と定められた新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、令和2年3月より感染防止のため石洞美術館は展覧会の開催を中止してまいりました。この間、新型コロナウイルスの感染は収束せず、第2波、第3波に見舞われています。このような状況では石洞美術館での展覧会の開催は困難であることから、令和3年度の石洞美術館での展覧会の開催は中止し、今年度は令和4年度の石洞美術館での展覧会開催への準備期間と致します。

助成事業につきましては、今年度は9月より助成事業の募集を開始し1月に選考し、3月に選考結果をご承認いただく計画です。なお表彰事業につきましては、延期になっている第36回淡水翁賞は授賞式を簡略に行い、賞金と賞牌を令和3年末までにお渡し致します。コロナ感染症の収束が見え始めた為、第37回淡水翁賞の選考は1月に行い、3月に授賞式は行う計画に変更致します。

II. 事業毎の計画

1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

(1) 石洞美術館

a. 展示計画

令和3年度の第49回 伝統工芸 日本金工展は11月6日～11月22日ギンザタナカホールで開催され、石洞美術館賞を授与することになっております。令和4年5月～6月で第50回 伝統工芸 日本金工展を石洞美術館で開催する事となり、その準備を進めております。

令和4年9月～11月の予定でテーマは「朝鮮のやきもの」（仮称）で準備を進めております。高麗時代（918年～1392年）を代表する陶磁器は優雅な形態で青緑色の高麗青磁です。また朝鮮時代（1392年～1910年）の初めは象嵌、印花などの粉青沙器があり、日本では「三島」などと呼ばれ珍重されました。15世紀になると統治理念の儒教思想にふさわしい清潔で簡素な白磁が焼かれました。白磁にコバルト顔料で文様を描く青花も焼かれ、17世紀には鉄絵具で文様を描く鉄砂が焼かれました。

石洞美術館の所蔵品の多くは石洞山人こと佐藤千壽初代理事長の収集したものです。その収集のきっかけになったものが高麗青磁の青磁碗で 20 代の頃に始まっています。素朴で自然な美しさを持った朝鮮のやきものを鑑賞して頂きたいと思います。

b. 調査研究

本年度は収蔵品のメンテナンス及び調査研究を行います。

c. 博物館実習

学芸員資格取得に必要な館園実習については感染防止の観点から受け入れを中止します。

2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

(1) 助成事業

助成事業については助成対象が移動を伴う調査研究が多いため、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止致します。

(2) 表彰事業

淡水翁賞（若手金工作家奨励賞）

今年度の第 37 回淡水翁賞の募集は新型コロナウイルスの感染症の収束が見え始めた為、計画を変更し再開致します。また延期しておりました第 36 回淡水翁賞受賞者の方には賞金と賞牌を令和 3 年末までにお渡しすることとし、授賞式は中止致します。